

第3回歴史文化基本構想策定委員会議事録

開催日時：平成30年11月9日（金）10時～

開催場所：徳島市役所 1101会議室

出席委員：高橋啓（委員長）、須藤茂樹（副委員長）

高橋晋一、菅原康夫、市村治、藤本宗子、坂口敏司、有内則子

黒田忠良、長谷川晋理、上原孝文、藤田稔夫

事務局：建島美穂、勝浦康守、三宅良明、宮城一木、西本沙織、立井佑佳

【関連文化財とストーリーについて】

委員

以前よりもストーリーが膨らんだと感じる。12のストーリーを挙げているが、徳島市域の歴史文化がほかの地域と比べてどういったものがあるのかテーマ設定されているのでわかりやすい。ただ、古代から現代まで1つずつ流れをつかむのは非常にいい方法だと思うが、ストーリーが通史になっている。徳島市の歴史的なものをピックアップしていけばいいのだが、単に通史だけで終わってしまっている。たとえば阿波国府と国分寺は国府関連遺跡の説明だけで、本来はこの地域に国府が設置された必然性があるはずなので、それを踏まえるともう少し違った書き方ができるのではないかと感じる。通史的な表現は徳島らしさが出ないように感じる。もう少し検討した方がいい。

委員

たしかに徳島市の特徴を抑えて通史的なものに陥っている。ストーリーには、ページ数や文字数の制限はあるのか。

事務局

ストーリーの文字数は各市町村によって異なる。写真やコラム的なものを入れている市町村もあり、そのボリュームによってストーリーの数も異なる。徳島市の場合、現在のストーリー数でいくなら、写真や地図、表を入れて、一つのストーリーにつきA4で2ページ前後にしたいと考えている。

委員

このストーリーはやさしい説明調になっている。読者が実際に行ってみよう、歩いてみようと思わせたり、ストーリーに対して謎を投げかけるようなしかけもあつたりしたらいいのでは。

委員

構想のなかに、読者が実際に歩けるようなモデルコースを入れることは可能なのか。

事務局

他の市町村も各ストーリーには地図（関連文化財の位置図）を掲載しているところが多い。徳島市の構想にも、関連文化財の位置関係などを記載した地図や関連文化財の写真、四季ごとの伝統芸能のリストなど、ビジュアル的な補足資料を添付していく予定。ただ、ルートマップまで載せるのは難しいかもしれない。策定後には、構想に基づいた文化財の活用事業を行うための国庫補助金メニューもあるようなので、ストーリーに応じたルートマップの作成やまちあるきなどの事業を展開したいと考えている。

委員

具体的な地図などがあれば実際に文化財を見て、ここに行こうとか子どもを連れて行こうとなるのでぜひ地図は入れてほしい。また、特に小中学生に対する補完的な説明があるとよい。

委員

たしかに最後の青石に関するストーリーはいいが、全体的に通史的な印象を受ける。うまくテーマを割って通史的な要素を入れるか、通史をざっくりさせて徳島の特徴的なもので構成したテーマをもっと増やしたほうがいい。今は青石に関するストーリーだけがほかのストーリーと違い独立テーマになっているので、浮いている感じがする。地域性と通史との関連性もほしい。徳島市を語る上で必要最低限の文化財を挙げ、もう一度構成し直してはどうか。

委員

徳島市を特徴づけるものとして、まず人形浄瑠璃、藍、阿波おどりが挙げられると思うが、それぞれのストーリーの中での位置づけを知りたい。

委員

人形浄瑠璃に関して過去形の記述になっているが、現在また活動がさかんになっているというような記述をしてほしい。また、阿波おどりについては津田の盆踊りなど昔からの踊りも大事だと思うが、現在世界に誇る徳島の民衆の踊りとなっていることをぜひ書いてほしい。

委員

この歴史文化基本構想は今後のまちづくりに生かしていくというのが基本。過去形ではな

く、今後将来的な活用やまちの活性化、まちづくりに活かさせていけるようなストーリーを構成してほしい。

委員

城下に関するストーリーだが、近世だけではなくもうすこし時代の幅を持たせてほしい。また、城下に関わる人や人形浄瑠璃などをうまく関連付けて大きなストーリーを構成できればよいのではないか。

委員

ストーリー⑪の中で新町川沿いにあった藍蔵に関して少し触れられているが、実際に藍蔵ではどのようなことが行われていたのか、またそれに関連した文化財を挙げるとよいのではないか。

委員

十郎兵衛屋敷が実施している、新町川をクルーズして人形浄瑠璃や藍染め体験などを楽しむ「徳島じょうりクルーズ」は、船から徳島を見るという新鮮な体験もあり、評判がいいようだ。歴史文化基本構想のストーリーも、子どもの遠足などに活用できるような魅力的なものに発展させてほしい。

委員

観光は集客力が重要。その点から考えるとストーリー⑨の「城下のまつり、里のいのり」に関しては先ほどの意見にもあったように時代を近世だけにおさめるのは難しい。人形浄瑠璃、阿波おどりもそうだが、古くから伝わり現在に至るまで継承されているという点を考えれば、獅子舞もそれに含まれる。香川では獅子舞が盛んで「獅子舞王国」であると自称しPRしている。徳島でも獅子舞が継承されているということに関しても触れてほしい。また、蜂須賀氏が県下全域に設置させた「お地神さん」や、様々な寺社にある保存樹木などもストーリー⑨の関連文化財に加えても良いのではないか。また、ストーリー⑫には人々の暮らしと密接な関係がある吉野川橋の文言が無いのでそれに関しても触れてほしい。

委員

徳島の近世の主要産業は藍と塩である。昭和町などには塩田があったが、現在は古地図などにその痕跡が残るのみ。塩業や津田地区のしらすなど、昔ながらの食文化などに関する記述もほしい。

事務局

塩に関しては最後に載せた「地域ごとの歴史文化の特徴」の部分で触れているが、ストー

リーの中では中世に搬出された特産品の1つとしてでしか言及していない。その点に関してはどこに入れるかも含めてこれから考えていきたい。

委員

ストーリー⑫では、青石を通して徳島の歴史を横断的に述べているのが面白い。それに関連して考えると、ブラタモリのように徳島の地質などの自然科学的な知見をもって、徳島の歴史文化を語れたら面白い。

委員

あまり通史にこだわると徳島らしい魅力的なものができなくなる。以前、少子高齢化・過疎化への対策として地域の文化遺産の活用が提唱されたことがあったが、そこでは地域の個性や魅力をうまく活用できるような地域が人を集められると述べられていた。地域の個性、つまり徳島市を形成する骨格を再構成するとうまくストーリーが組み立てられるのではないか。地域の文化財の状況は時間と共に変化していくものなので、細かく組み立てるのではなく、おおざっぱな組み立ての中でその核の部分を抑えた方が、より広がりが出るのではないか。

委員

徳島市を語る上での軸になるものをいくつか洗い出し、それを中心にしてストーリーを組み立てるのも一つの手ではないか。

委員

この報告書は総合的な手引書を想定しているのか、後々の活用の事まで言及するのか。活用の事まで言及するのであれば、それぞれの地域がかかわるものであり、通史的なものでは活用との兼ね合いがつかない。また、厳しいことをいうようであるが、現状のストーリーは徳島らしさが少なく、地名を替えれば他の地域の基本構想に入れても違和感がないようなものである。ストーリーでは人形浄瑠璃や阿波おどりのような、徳島を語る上で外せないような特徴を頭出しすればいいのでは。

委員

紙媒体では情報をそぎ落としていく必要があるが、インターネット上の Wikipedia のように情報を網羅したものを公開するのも良いのではないか。

委員

大きなテーマとして“水都とくしま”が挙げられているので、それぞれのテーマに水都をかければいいのではないか。また、広報とくしまなどでは紙媒体の物を手に取る人が減っ

てきたというアンケート結果が出ているが、徳島市は紙媒体を手にする機会が少ない人に対してはどのように対応するのか。

事務局

活用の方針については、次の章でストーリーごとの活用方針を記載する予定である。ストーリーが定まらなると活用方針は確定しづらいが、地域や文化財によって活用の方法は変わっていくと思う。また先ほどの **Wikipedia** のようにすべての情報を網羅したものを公開できないかという意見にもかかわるが、構想はインターネットでも見られるように公開予定である。また、各地区の文化財照会調査の成果リストについても公開してほしいという意見がある。構想の最後にまとめて入れるか、またはCD-Rにデータとして入れたいと考えており、構想の一部としてインターネットでも見られるように工夫していきたい。さらに、ストーリーから漏れたものでも、それぞれの地域らしさを表した文化遺産は、地区ごとの特徴・文化遺産のなかでできるだけ言及したい。ストーリーごとに保存活用の方針を決めていくことが良いと考えており、ストーリーに関してはテーマ性のあるものを持ってきて合体していく必要があると考えている。

委員

徳島は水の恩恵や水害によってかたちづくられてきたので、それに関しては触れてほしい。また吉野川の「賃取り橋」などに関する、小学生も楽しめるコラム的なものや、今実際に体験できるような話も織り込んでほしい。

委員

徳島市の歴史文化を俯瞰していこうとすると、ある程度は通史的なもので形成する必要がある。通史を踏まえたうえでテーマの見直しをし、人形浄瑠璃や阿波踊りのような「これぞ徳島」というようなものを前面に押し出して自己主張して編成していく必要があるのではないかと。

委員

歴史文化というのは地域・人のアイデンティティにつながる。特に人物は、歴史に興味を持つきっかけとなると感じている。その点を踏まえると、コラムのような形でよいので関寛齋のような、地域の人々のアイデンティティにつながるような人に関して言及するのも良いのではないかと。

委員

徳島市を語る上で外すことが出来ないような人物（関寛齋、長井長義、鳥居龍蔵など）、事象を洗い出し、その上でストーリーを作ってはどうか。

委員

人物だけに絞ってしまうと範囲が狭くなってしまいますので、その人物を形成した地質、風土に関しても述べてはどうか。また、自然遺産が少ないように感じる。

委員

徳島市は市域が広く自然遺産もいろいろあるのでうまく入れ込めたらいいと思う。

事務局

人物については、市ゆかりの人物というテーマで1つのストーリーを作っている市もある。ご指摘のとおり、徳島城下では個性的な人物がたくさん輩出されているので十分検討したい。また、吉野川に関する自然遺産についてはストーリーに含まれているが、他にも多家良地区など山間部の自然に関しては今のところ言及が少ないので、入れられるかどうか検討したい。

委員

藍の輸出など、他地域との交流に関しても言及するのはどうか。たとえば藍の隆盛とともに栄えていた徳島の造船業が次第に衰退し、仕事が減少した船大工が木工業に転換していったことなど。交流していた他地域の変化に応じて、徳島の状況も変化していったと思うので、その点に関しても触れたらよいのでは。

委員

中世に関しては政治的なストーリーがメインとなっているが、荘園などにも触れられるとよい。

委員

全てのことを書きだすことは不可能であるので、ある程度までは言及し、それ以上の事に関しては読者が自身で調べられるように参考文献などを記述しておけばよいのではないか。

事務局

各地区の歴史に関する文献についてはリスト化しているため参考文献としてある程度入れることは可能だと思う。

委員

国際化に向けて、外国人の視点でも徳島市の歴史文化の魅力について言及できたら良いと思う。

委員

この構想では方言に関しては言及しないのか。

委員

方言については全体的に入れていくと難しいが、例えば古くから関西との交流が盛んなことによって上方方言が残っていることや、「へらこい」など県民性を示すような特徴的な方言ということで入れることはできるかもしれない。

委員

通史的なストーリーに関しては少なくてもいいので、もう少し徳島の特徴的なものを頭出しして構成し直してほしい。

【語句について】

委員

四国征伐と四国平定、村と里など、語句はどちらかに統一した方がよい。文化財に関する場所の情報などに関しても、形式を統一した方がよい。

以上